

目次等

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-07-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032438

■総説 炎症性疾患

- (1) 炎症とは…………… 加藤秀人… 1- 13

■原著

2012年～2017年5年間の小児集中治療室に入室した下気道感染症の小児から

- 検出された呼吸器ウイルスの検討…………… 出口薫太郎・濱田洋通・
廣瀬翔子・本田隆文・安川久美・
西嶋陽奈・小倉 惇・高梨潤一… 14- 20

- 高血圧合併2型糖尿病患者における食塩摂取量と食習慣との関連…………… 廣田尚紀・
中神朋子・佐々木敏・馬場園哲也… 21- 29

育児中の日本外科学会会員の仕事とプライベートのストレス：

- 働くドクターストレス調査結果から…………… 富澤康子・萩原牧子・
野村幸世・明石定子・柴崎郁子・
葉梨智子・山内英子・中村清吾… 30- 37

■学会・研究会抄録

- 第361回東京女子医科大学学会例会（2020年2月29日）…………… 38- 47

- 令和元年度東京女子医科大学医学部・基礎系教室研究発表会（2019年12月21日）…………… 48- 50

JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY

(TOKYO JOSHI IKADAIGAKU ZASSHI)

Volume 90 Number 1 February 25, 2020

Review: Inflammatory Disease

(1) What Is Inflammation?

Hidehito Kato 1-13

Originals

Clinical Features of Respiratory Viruses Detected in Patients in the Pediatric Intensive Care Unit for Lower Respiratory Tract Infection from 2012 to 2017

Kuntaro Deguchi, Hiromichi Hamada, Shoko Hirose, Takafumi Honda,

Kumi Yasukawa, Haruna Nishijima, Atsushi Ogura, Jun-ichi Takanashi ... 14-20

Relationship between Salt Intake and Dietary Habits in Patients with Type 2 Diabetes and Hypertension

Naoki Hirota, Tomoko Nakagami, Satoshi Sasaki, Tetsuya Babazono 21-29

Stress at Work and in Private Life during Parenting: A Survey of Members of the Japan Surgical Society

Yasuko Tomizawa, Makiko Hagihara, Sachiyo Nomura,

Sadako Akashi-Tanaka, Ikuko Shibazaki, Tomoko Hanashi,

Hideko Yamauchi, Seigo Nakamura 30-37

Proceeding

The 361st Regular Meeting of the Society of Tokyo Women's Medical University

(February 29, 2020)..... 38-47

第 361 回東京女子医科大学学会例会

日 時 2020 年 2 月 29 日 (土) 13:00~17:00

会 場 総合外来センター 5 階 大会議室

開会の辞
挨拶

司会 (幹事) 清水京子
(会長) 丸 義朗

令和元年度研究奨励賞授与式 13:02~13:15

選考経過報告

(学長) 丸 義朗

山川寿子研究奨励賞 (第 32 回)

1. 膵管内乳頭粘液性腫瘍の予後不良因子の検討

(消化器外科学 助教) 出雲 渉

佐竹高子研究奨励賞 (第 28 回)

1. 人工心肺使用の心臓手術におけるフィブリンネットワーク構造の変化と止血効果

(東医療センター麻酔科 講師) 市川順子

中山恒明研究奨励賞 (第 6 回)

1. 人工知能 AI を用いた手術動画における手技解析の検討

(消化器外科学 准講師) 番場嘉子

平成 30 年度受賞者研究発表 13:15~14:00

座長 (幹事) 清水京子

山川寿子研究奨励賞 (第 31 回)

1. ステロイド依存性頻回再発型微小変化型ネフローゼ症候群における小児期発症と成人期発症によるリツキシマブ治療効果の相違についての検討

(腎臓内科) 中谷裕子

佐竹高子研究奨励賞 (第 27 回)

1. RAGE2 遺伝子は 1 型糖尿病疾患感受性 HLA 遺伝子と関連する

(¹糖尿病センター内科, ²膠原病リウマチ痛風センター, ³東医療センター) 三浦順之助¹・

川本 学²・川口鎮司²・保科早里¹・山中 寿²・内潟安子^{1,3}・馬場園哲也¹

中山恒明研究奨励賞 (第 5 回)

1. 糖鎖分子マーカーを用いた胆道癌の高感度診断システムの開発

(¹消化器外科, ²筑波大学医学医療系医療科学) 樋口亮太¹・正田純一²・

谷澤武久¹・植村修一郎¹・出雲 渉¹・松永雄太郎¹・山本雅一¹

一般演題 14:00~14:10

座長 (幹事) 清水京子

1. 医療法人社団 焔 やまと診療所での在宅研修で気づいたこと, 学んだこと

(東医療センター¹ 卒後臨床研修センター, ²内科) 本間俊佑¹・石川元直²・佐倉 宏²

<休 憩>

司会 (幹事) 小森万希子

第 14 回研修医症例報告会 14:20~17:00

[発表 5 分, 質疑応答 3 分/○発表者, ◎指導医]

開始の挨拶

(卒後臨床研修センター長) 中村真一

Block 1 内科系 1 14:25~15:05

座長（八千代医療センター糖尿病・内分泌代謝内科）大沼 裕・（東医療センター内科）久保 豊

1. 乳癌化学療法中にオランザピンおよびステロイド治療が誘因と思われる
糖尿病ケトアシドーシスを発症した2型糖尿病の1症例
（八千代医療センター¹ 卒後臨床研修センター,²糖尿病・内分泌代謝内科,³消化器内科）○折本竜太¹・
吉本芽生²・平野紗智子²・石野瑛子²・須田博之²・
米田千裕²・萩野 淳²・◎大沼 裕²・西野隆義³・橋本尚武²
2. 両心室ペースメーカーのリード交換により慢性の左胸痛が改善した1例
（¹ 卒後臨床研修センター,²循環器内科,³心臓血管外科,⁴先進電気的心臓制御研究部門）○鈴木美香子¹・
◎後藤雅之²・鈴木 敦²・齋藤 聡³・庄田守男^{2,4}・萩原誠久²
3. 関節エコーをあててみた—エコーを用いた筋骨格診察修得の経験—
（八千代医療センター¹ 卒後臨床研修センター,²リウマチ膠原病内科）○村松瑤紀¹・◎瀬戸洋平²
4. 高血圧を契機に診断された若年女性の傍糸球体細胞腫瘍の1例
（¹ 東医療センター卒後臨床研修センター,²泌尿器科,³病理診断科,⁴病理学（病態神経科学分野））
○小川瞭太郎¹・高木敏男²・山本智子^{3,4}・◎長嶋洋治³
5. 進行腎癌に対してニボルマブ+イピリブマブ併用療法中にStevens-Johnson 症候群様症状を発症した1例
（東医療センター¹ 卒後臨床研修センター,²泌尿器科,³皮膚科）○市岡蒔子¹・
堀内俊秀²・橘 秀和²・土岐大介²・山下かおり²・
梅垣知子³・巴ひかる²・田中 勝³・◎近藤恒徳²

Block 2 内科系 2 15:05~15:37

座長（八千代医療センターリウマチ膠原病内科）瀬戸洋平・（東医療センター内科）石川元直

6. monocytosis が病状進行の sign となった PMF の症例における monocytosis 前後での
骨髄病理学所見の比較検討
（東医療センター¹ 卒後臨床研修センター,²内科,³病理診断科）○本間俊佑¹・
マーシャル祥子²・小笠原壽恵²・森 直樹²・◎増永敦子³
7. 急性肝不全で発症した古典的ホジキンリンパ腫
（東医療センター¹ 卒後臨床研修センター,²内科）○岡田幸子¹・
◎マーシャル祥子²・木附亜紀²・小笠原壽恵²・石川元直²・佐倉 宏²
8. 劇的な経過を辿った intestinal T-cell lymphoma, NOS の1例
（東医療センター¹ 卒後臨床研修センター,²救急医療科）○福田 凌¹・小島光暁²・庄古知久²
9. 慢性骨髄性単球性白血病の経過中に粟粒結核を発症した1例
（東医療センター¹ 卒後臨床研修センター,²内科）○藤崎真由子¹・
◎マーシャル祥子²・木附亜紀²・小笠原壽恵²・石川元直²・佐倉 宏²

<休 憩>

Block 3 小児・産婦 15:47~16:19

座長（小児科）平澤恭子・（東医療センター産婦人科）上野麻理子

10. 先天性中枢性低換気症候群（CCHS）の1例
（東医療センター¹ 卒後臨床研修センター,²小児科,³周産期新生児診療部）○鈴木宇博¹・
◎池野かおる²・山田洋輔³・東 範彦²・小谷 碧²・長谷川久弥³・杉原茂孝²
11. 妊婦健康診査未受診妊婦に対し、多職種連携により児の養育方針を決定した1例
（¹ 卒後臨床研修センター,²産婦人科,³母子総合医療センター）○高瀬瑠璃子¹・
◎水主川純²・田畑 務²・和田雅樹³

12. 妊娠中期に呼吸不全を呈し原因の確定診断に苦慮した1例

(東医療センター¹ 卒後臨床研修センター,²産婦人科,³内科,⁴泌尿器科) ○田中利蓉子¹・

◎上野麻理子²・春日みさき²・岡本英恵²・赤澤宗俊²・森田吉洋²・一戸晶元²・

長野浩明²・村岡光恵²・橋本和法²・中嶋 俊³・八反丸美和³・中岡隆志³・橘 秀和⁴

13. 心因性非てんかん発作に血管迷走神経性失神を合併した女子例

(¹卒後臨床研修センター,²循環器小児科,³小児科) ○外山皓喜¹・◎衛藤 薫³・浦上恭英¹・

南雲薫子³・西川愛子³・工藤恵道²・伊藤 進³・平澤恭子³・永田 智²

Block 4 外科系 16:19~16:51

座長(小児外科) 山口隆介・(東医療センター救急医療科) 庄古知久

14. THRIVE method を使用した中枢性無呼吸に対する酸素化補助経験

(東医療センター¹ 卒後臨床研修センター,²麻酔科) ○岡崎亮汰¹・

◎岡村圭子²・西山圭子²・市川順子²・小高光晴²・小森万希子²

15. シャントが挿入されている頭蓋底髄膜腫に合併した慢性硬膜下血腫の1例

(¹卒後臨床研修センター,²東医療センター脳神経外科) ○西山佳恵¹・

広田健吾²・萩原信司²・谷 茂²・笹原 篤²・◎糟谷英俊²

16. 難治性の特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) を合併した上行結腸癌, 胃癌, 胆嚢結石に対し

準緊急手術を施行した1例

(東医療センター¹ 卒後臨床研修センター,²外科,³内科) ○大山 優¹・◎浅香晋一²・

西口遼平²・島川 武²・勝部隆男²・◎塩澤俊一²・

木附亜紀³・マーシャル祥子³・森 直樹³・佐倉 宏³

17. 多量飲酒後の強い腹痛および下血に対して非閉塞性腸間膜虚血を疑い緊急手術を行った1例

(東医療センター¹ 卒後臨床研修センター,²救急医療科) ○増山由華¹・◎小島光暁²・庄古知久²

総 評

(血液内科) 吉永健太郎

ベストプレゼンテーション賞表彰式

閉会の辞

司会(幹事) 小森万希子

記念撮影

〔平成30年度山川寿子研究奨励賞受賞者研究発表〕

1. ステロイド依存性頻回再発型微小変化型ネフローゼ症候群における小児期発症と成人期発症によるリツキシマブ治療効果の相違についての検討

(腎臓内科)

中谷裕子

〔目的〕リツキシマブは、日本において難治性ネフローゼ症候群に効能効果が承認されたが、対象は小児期発症に限られ、成人期発症患者には有効性および安全性は確立していないとされている。そこで、成人期発症のネフローゼ症候群患者について、リツキシマブの有効性および副作用を検証することとした。〔方法〕リツキシマブ(375 mg/m² BSA per dose)の点滴投与を6か月毎に計4回投与した小児期発症のステロイド依存性頻回再発型微小変化型ネフローゼ症候群の患者32名(平均発症年齢8.6歳)と成人期発症の同患者19名(平均発症年齢30.6

歳)について、再発回数や免疫抑制薬の内服量、副作用などを比較した。〔結果〕小児期発症と成人期発症とも全症例でリツキシマブにより寛解維持可能で、リツキシマブ開始後24か月間における再発回数は小児期発症が0.3±0.7回、成人期発症が0.3±0.6回と、リツキシマブ開始前と比較しいずれも有意に改善を認めた(p<0.001)。副腎皮質ステロイドの内服は小児期で81.3%(32名中26名)、成人期で70.6%(17名中12名)が中止でき、内服量は小児期が0.9±2.5 mg/日、成人期が0.8±1.6 mg/日と両群とも有意に減少が得られた(p<0.001)。副作用に関しては、infusion reactionをそれぞれ21.1%、19.7%に認めたが、発生頻度において両群に差は認めなかった(p=0.722)。〔結語〕ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ治療は、成人期発症例でも有意に治療効果を認め、副作用も小児期と比較し増加なく、安全に使用できると考えられた。

令和元年度東京女子医科大学医学部・基礎系教室研究発表会

日 時：2019年12月21日（土）9：30～12：30

場 所：東京女子医科大学弥生記念講堂地下 A 会議室

主 催：基礎医学系運営会議

1. スフェロイドを利用した三次元細胞間接着の制御機構の評価 (生化学) 田中正太郎
2. 増殖ストレス時における造血幹細胞制御機構 (解剖学 (顕微解剖学・形態形成学分野)) 望月牧子
3. 筋萎縮性側索硬化症におけるミクログリアのグルタミン酸放出増強機構 (病理学 (病態神経科学分野)) 柴田亮行
4. 線虫の変異体ストックを利用した、行動戦略の制御に関わる分子の探査と解析 (生理学 (分子細胞生理学分野)) 末廣勇司
5. 熱帯アフリカのマラリア撲滅を目指したコミュニティ主導型統合的戦略のための分野融合研究 (国際環境・熱帯医学) 凧 幸世
6. 災害時用医薬品の備蓄体制に関する研究 (衛生学公衆衛生学 (環境・産業医学分野)) 中島範宏
7. IgG₄ 関連疾患マウスモデルにおける細菌抗原の役割 (微生物学免疫学) 柳澤直子
8. 交通事故被害者の被害実態と日本における支援 (日本語学) 辻村貴子

1. スフェロイドを利用した三次元細胞間接着の制御機構の評価

(生化学)

田中正太郎・中村史雄

〔緒言〕三次元培養の一種である細胞集団塊（スフェロイド）を用いた強靱性（組織の変形しにくさ）研究は、現在はElastography（弾性画像解析）という分野で展開されている。これは顕微鏡観察下でスフェロイドを圧迫し、その形状変化から物理的情報をくみ出そうというものである。本研究では現在の課題である「①一細胞レベルの観察が困難②スフェロイドの圧迫には特殊な技術が必要」を解決し、細胞間接着を定量的に評価するための実験系を構築する。〔対象と方法〕カバーガラスの自重で生きたスフェロイドを直接圧迫し、内部細胞の構造変化を独自のライブイメージング技術（陰性造影法）で定量的に観察する。さらに遺伝子ノックダウンした細胞で調製されたスフェロイドで構造変化の違いを確認し、その遺伝子の強靱性への貢献度を評価する。〔結果〕カバーガラスと様々な厚みのスペーサーを用い、スフェロイドを任意の高さに圧迫する方法を開発した。また陰性造影法にて圧迫前後の内部細胞の構造変化を観察した。細胞は体積を保存したまま形状のみ大きく変化させていたが、一定の圧迫距離を超えるとそれまで保持されていた細胞体積・細胞表面積相関が一気に破綻した。これは強靱性破綻の閾値が存在することを示唆していた。〔結論〕強靱性解析に向けたスフェロイド観察技術を確立した。今後

は遺伝子ノックダウン細胞での実施を試みる。

2. 増殖ストレス時における造血幹細胞制御機構

(解剖学 (顕微解剖学・形態形成学分野))

¹Department of Pediatrics, Papé Family Pediatric Research Institute, Pediatric Blood & Cancer Biology Program, Stem Cell Center, Oregon Health & Science University, Portland, OR., ²Comprehensive Bone Marrow Failure Center, Children's Hospital of Philadelphia; Perelman School of Medicine, University of Pennsylvania, Philadelphia, PA)

望月牧子^{1,2}・Peter Kurre³・Markus Grompe²・石津綾子¹

造血幹細胞 (hematopoietic stem cell: HSC) は傍大動脈生殖隆中腎 (AGM) 領域で発生し、胎児肝 (fetal liver: FL) で急激に増殖するが、一方、成体になり骨髄に移行した後は静止期 (G0) に保たれており、HSCの細胞周期は個体の生涯にわたってダイナミックに遷移していることが明らかになっている。HSCのエネルギー代謝は、従来、成体HSCは解糖系優位であることが言われてきたが、近年盛んにHSCでのミトコンドリアの酸化ストレス代謝 (OXPHOS) の研究が進められており、OXPHOSはHSCにとって自己複製、多能性の両方に必須であることが明らかになっている。ファンconi貧血 (Fanconi